



①



②

日本で電信が始まった明治初期(1870年代初め)、電線の架設に必要な碍子は全てイギリスやドイツなどからの輸入で、値段は高く品質は非常に悪いものでした。そこで、初代電信頭に就任した石丸安世は、日本の磁器発祥の地である有田の技術を用いて磁器による碍子の製造を立案し、第八代深川栄左衛門(のちの(株)香蘭社創業者)に磁器碍子の製造を依頼しました。深川栄左衛門は、陶磁器を主としていた有田焼技術を基に研究努力の末、磁器碍子を完成させ、当時の工部省電信寮に納入しました。電信寮では1873年(明治6年)お雇い外国人モリスによって試験が行われ、この磁器碍子は外国製碍子の性能をはるかにしのぐ高い性能をもつことが確認されました。この技術は、日本の電気インフラ拡充に大きな貢献をし、碍子といえは今なおこの磁器製を指すほど重要な製品となっています。そして、この磁器碍子技術はのちの工業用ファインセラミックス誕生のきっかけとなりました。

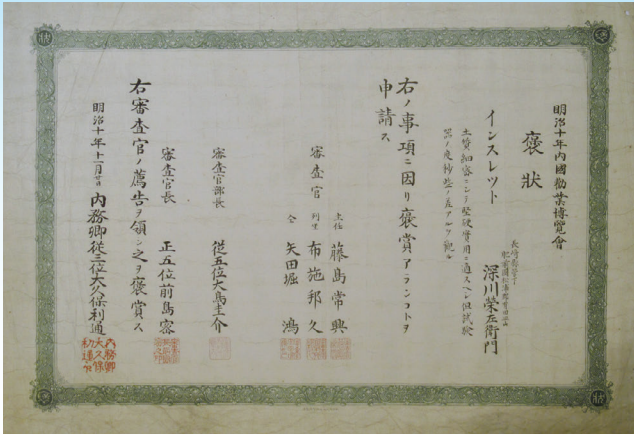
一方、石丸安世は1865年(慶応元年)イギリスに密航し、英語や数学を学ぶ傍ら蒸気機関車や電信機、造船所や裁判所などを見学するなどの見聞を広めました。帰国後は炭鉱開発や有田焼の技術開発に尽力する傍ら、私塾「経綸舎」を開設して若者たちに英語や数学などを教えました。ここで学んだ若者たちの中からは多くの電気工学者や技術者が出ています。特に電気学会を創設した志田林三郎、中心メンバーであった石井理一、鶴田暢、吉田正秀、3代目会長となった中野初子などは「経綸舎」の出身であり、石丸安世がいなければ電気学会の創設も数十年遅れていたのではないとも言われています。

☆顕彰先 : 株式会社香蘭社

☆所在地 : 〒844-8601 佐賀県西松浦郡有田町幸平1丁目3番8号

☆ホームページ : <http://www.koransha.co.jp>

☆アクセス(最寄駅) : JR 佐世保線 上有田駅 徒歩 10分



③



④



⑤



⑥

- (写真提供：佐賀県立佐賀城本丸歴史館①、株式会社香蘭社②③④⑤、郵政博物館⑥)
- ① 石丸安世
  - ② 香蘭社に残る明治期の磁器碍子
  - ③ 内国勲業博覧會 褒状
  - ④ 第八代深川榮左衛門
  - ⑤ 磁器碍子と併せ香蘭社にて製作していた長平瓶（ダニエル電池の構成部品）・茶台碍子（シャックル）
  - ⑥ 当時の電信線敷設工事の様子